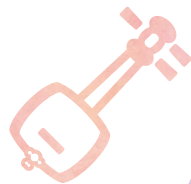




上越市



「地域の宝」
ガイドブック



上越市「地域の宝」ガイドブックは、 118件の「地域の宝」を紹介する小冊子です。

多様な自然環境に恵まれ、悠久の歴史を刻んできた上越市には
たくさんの“たからもの”（文化財）が守り伝えられています。

このガイドブックでは、市民の皆さんが大切にし、
心のよりどころとする「地域の宝」を紹介しています。
「地域の宝」は令和2年度から、令和4年度までの3年間で
118件を認定しました。

本紙が身近な宝物への気づきになったり、
行ったことのない地域の宝物を発見したりするきっかけになれば、幸いです。

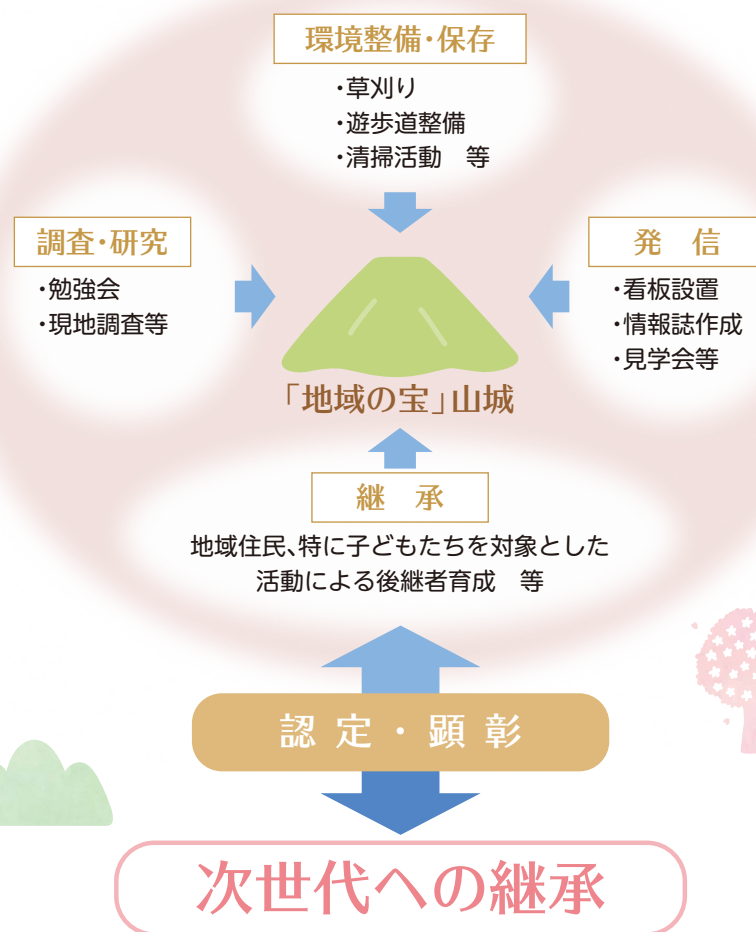
「上越市にはこんなにたくさんの宝物があるんだ！」
そんな声があふれてくるように、魅力たっぷりに紹介していますので、
どうぞゆっくりご覧ください。

Contents

「地域の宝」 認定制度のイメージ図 … 2	安塚区 …… 42	中郷区 …… 63
現地調査での気づき …… 3	浦川原区 … 45	板倉区 …… 64
上越市地域マップ …… 6	大島区 …… 48	清里区 …… 70
ガイドブックの見方 …… 7	牧区 …… 50	三和区 …… 73
合併前上越市① …… 8	柿崎区 …… 52	名立区 …… 76
合併前上越市② …… 17	大潟区 …… 55	市内一円 … 78
合併前上越市③ …… 30	頸城区 …… 59	索引 …… 79
	吉川区 …… 61	

上越市「地域の宝」認定制度のイメージ図

例えば、山城を例にとると、こんなイメージだよ。
円の真ん中は、地域の歴史を語る上で欠くことができない
大切な“たからもの”（文化財）＝山城。
そして、それを取り囲む円の中は、認定の要件となる、
山城を保存・活用する取組になるんだ。
“たからもの”（文化財）を次世代に継承するためには、
欠くことのできないものだね。



現地調査はわぐわぐの連続でした

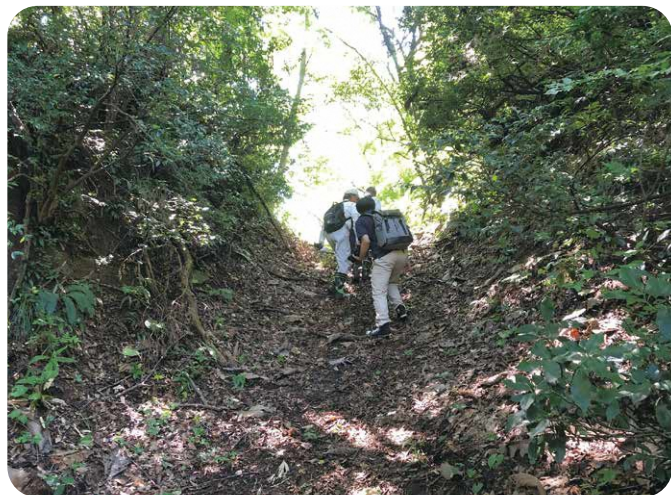


応募いただいた「地域の宝」は、上越市教育委員会が現地調査を行いました。

この制度で対象とする文化財は、有形・無形、文化財の指定・未指定は問いません。地域で信仰される仏像、地域のシンボルとなっている建造物や樹木、地域に伝わる年中行事や祭礼、踊りなど、様々な種類があります。現地調査は、これまで知らなかった「地域の宝」に触れ、毎日が新たな発見と驚きの連続でした。活動団体の皆さんから案内していただき、詳しい説明や熱い思いをたくさんお聞きすることができ、とてもよい機会となりました。皆さんの熱心な活動が、「地域の宝」に光をあて、未来への継承につながっていることを実感しました。

現地調査ののち、文化財の専門家から意見を聞き、上越市「地域の宝」を認定しました。



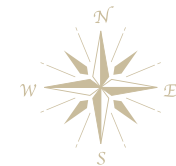


上越市



このガイドブックでは、28の地域自治区ごとに「地域の宝」を紹介しています。

合併前上越市は大きく3つに分け、地図上では「上越①」「上越②」「上越③」と記載しています。



ガイドブックの見方

上越市「地域の宝」の認定番号
[マップ内の番号に対応しています。]

所在地の地域を
表しています。

16 レルヒ少佐が伝えた 一本杖スキー技術



全国に誇る文化 レルヒ少佐が見守る金谷山を拠点に、
より正確な一本杖スキー術の伝承に力を注ぐ

明治44年(1911)1月12日、オーストリア=ハンガリー帝国(当時)の軍人レルヒ少佐により、上越市において日本で初めて本格的なスキー指導が行われました。レルヒ少佐が伝えたスキー技術は、アルプスのような急斜面でも安全に滑り降りるための一本杖によるブルーク姿勢の滑走法で、少佐の指導以降、軍事・スポーツに留まらず、雪国上越市の生活に浸透していきました。現在、レルヒの会がレルヒ少佐が伝えたスキー術の調査研究、披露を積極的に行い伝承を図っています。

📷 レルヒの会による金谷山での披露の様子

レルヒの会

所在地 ● 上越市大貫二丁目18-37
(事務局 日本スキー発祥記念館)



活動団体の名称を
表しています。

上越市ホームページの上越市「地域の宝」の
ページの二次元コードです。
このページに載せきれなかった内容が詳しく
載っているので、ぜひチェックしてみてください。

文化財の指定等を表しています。

- ...国指定文化財
- ...上越市指定文化財
- ...新潟県指定文化財
- ...国登録文化財



16 レルヒ少佐が伝えた 一本杖スキー技術



全国に誇る文化 レルヒ少佐が見守る金谷山を拠点に、
より正確な一本杖スキー術の伝承に力を注ぐ

明治44年(1911)1月12日、オーストリア=ハンガリー帝国(当時)の軍人レルヒ少佐により、上越市において日本で初めて本格的なスキー指導が行われました。レルヒ少佐が伝えたスキー技術は、アルプスのような急斜面でも安全に滑り降りるための一本杖によるブルーク姿勢の滑走法で、少佐の指導以降、軍事・スポーツに留まらず、雪国上越市の生活に浸透していきました。現在、レルヒの会がレルヒ少佐が伝えたスキー術の調査研究、披露を積極的に行い伝承を図っています。

📷 レルヒの会による金谷山での披露の様子

レルヒの会

所在地 ● 上越市大貫二丁目18-37
(事務局 日本スキー発祥記念館)



25 中ノ俣集落 猫又伝説

金谷区



実際にあった話として
中ノ俣集落に伝わる妖怪伝説

猫又伝説は、天和3年(1683)、当時の中ノ俣村を襲った妖魔を、村人の牛木吉十郎が退治した伝説です。退治の様子や死骸を高田の役所に収めるため細かく採寸した内容の古文書が伝わっており、中ノ俣では「実際にあった話」として語り継がれています。退治の褒美に代官から授かった刀等が、吉十郎の子孫により代々守り伝えられています。猫又の死骸が付近に埋められたとされる土橋稲荷(大町1丁目)は、猫又稲荷と呼ばれています。

中ノ俣集落の鎮守、気比神社春祭りで行われた講談風の劇の様子

特定非営利活動法人
かみえちご山里ファン倶楽部

所在地 ● 上越市大字中ノ俣



26 中ノ俣集落 角間の棚田景観

金谷区



伝統的な稲作技法を守る、
里山文化の象徴

中ノ俣集落を見下ろす角間の棚田は、天明元年(1781)に用水開拓が行われた歴史ある棚田です。地滑り地帯のため1枚1枚の水田が保水のため小さく、大きな機械が入れないため昔ながらの農法が守り伝えられました。集落を地滑りから守る水土保全や生態系を守るビオトープとしてなど、様々な機能や知恵と技術を守り伝える箱舟としての役割も果たしています。頂上付近の展望台からの眺めは絶景で、四季折々様々な表情を見せてくれます。

季節ごとに美しい姿を見せる棚田景観

特定非営利活動法人
かみえちご山里ファン倶楽部

所在地 ● 上越市大字中ノ俣角間



35 中正善寺獅子天狗舞

金谷区



市



クライマックスは天狗と獅子の決闘の舞
中正善寺に伝わる獅子天狗舞

伊勢(三重県)から伝わったとされ、上杉謙信公が春日山城で城兵の慰安と士気高揚のため演じさせたとも言われています。白山神社祭礼や祝いの席で舞われていましたが、現在は地域行事等で披露されています。獅子は霊獣として悪霊を鎮める神の使いと考えられてきましたが、中正善寺の場合、霊獣の獅子も時にはおごり高ぶるので天狗が登場し、こらしめてしまいます。獅子が玉(神の魂)と舞う「玉遊びの舞」、「天狗と獅子の決闘の舞」が舞われています。

天狗と獅子の決闘の舞(上)
横笛と大太鼓、締太鼓による演奏(下)

中正善寺獅子天狗舞保存会

所在地 ● 上越市大字中正善寺



46 砦の名水横清水

金谷区



戦国時代の兵士たちの喉を潤した名水

新潟県の名水にも選ばれる横清水は、春日山城から下正善寺を経て、尾根伝いにトヤ峰砦、宇津尾砦、中ノ俣砦へと続く古道沿いにあります。宇津尾砦を経て南東に尾根伝いに進むと滝寺砦へも続くことから、戦国時代の兵士たちの喉を潤していたと考えられています。地域の方々により水神を祀る祠が建立され、平成6年には下正善寺の熊野神社宮司により入魂式が行われました。砦の散策とあわせて、名水を求めて訪れる人もいます。

水神を祀る祠(上)
新潟県の名水横清水(下)

宗教法人 熊野神社

所在地 ● 上越市大字下正善寺字横清水1741



47 トヤ峰砦跡と周辺古道



眺望抜群 春日山城の裏街道の要地に位置する砦

標高 210 m のトヤ峰砦は、春日山城から南西約 2km に位置する春日山城周辺砦群の一つとされています。東西 400 m、南北 100 m の範囲に郭や堀切、竪堀、土塁等が配置され、砦南側には、尾根を断ち割る深い堀切があります。中心郭とされる頂上からの眺望は抜群です。春日山城にはいくつかの裏街道があり、その要地に位置するトヤ峰砦は、街道の見張り番所及び春日山城との連絡砦としての役目を果たしていたと考えられています。



中心郭の石碑 (上)
尾根を断ち割った深い堀切 (下)

トヤ峰砦保存会
所在地 ● 上越市大字下正善寺1631-1ほか



62 木造十一面千手観音坐像



地域を見守り続ける 人々を悩みから救う十一面千手観音坐像

宝陀羅神社境内にある飯観音堂の本尊です。頭上に十一面を頂き、中央 2 手を除いて左右にそれぞれ 20 本の手をそなえており、一本の手で 25 の悩みを救うとされ、左右 40 本に 25 を乗じて千手となります。それぞれの手には、人々を悩みから救うための持物が握られています。ヒノキ材を用いた寄木造で、水晶の玉眼が嵌め込まれおり、室町時代後期の制作と考えられています。持物や宝冠は後世に修理された痕があり、厨子が造られた文久 3 年 (1863) 頃の修理とみられます。



飯観音堂の本尊、木造十一面千手観音坐像

飯地区町づくり協議会
所在地 ● 上越市大字滝寺1943(飯観音堂)



51 「宇津尾集落」



集落出身者が守る「宇津尾集落」

宇津尾集落は、県道上正善寺高田線沿いの下正善寺集落から約 1km 西側の山合の集落です。かつては 30 戸程ありましたが、昭和 30 ~ 40 年代に移住が増え、現在住人はいません。しかしながら集落出身者の絆は強く、新年会での顔合わせ、年 2 回春と秋の道草刈り、薬師堂への薬師参り、集落の鎮守八幡社日吉社合殿の春と秋の祭り、宇津尾砦での狼煙上げ等様々な地域活動が行われ、集落機能を維持し、町内会としても存続しています。



集落の鎮守、八幡社日吉社合殿 (上)
ふれあいセンターに展示する集落の心象風景を描いた絵 (下)

宇津尾町内会
所在地 ● 上越市大字宇津尾



88 滝寺水芭蕉群生地



低地に咲く珍しい水芭蕉群

滝寺字蟹沢 (かにさわ) と字下違 (したちがい) の 2 か所にある水芭蕉群生地です。それぞれ約 2,000 株以上生育しています。水芭蕉は通常標高 1,000 m 以上の高地で生育しますが、滝寺では、標高 36 m の低地で生育しています。上越市「心のふるさと道」の通過点に位置し、多くの人が集う憩いの場になっています。毎年 4 月の開花時期には、水芭蕉を「町内の花」とする地元の滝寺町内会と連携して、「滝寺みずばしょうまつり」を開催しています。



早春の滝寺を彩る、水芭蕉の花 (上)
遊歩道も整備され、散策を楽しむことができる (下)

滝寺まちづくり協議会
所在地 ● 上越市大字滝寺字蟹沢986付近ほか



89 たきでらとりであと
滝寺砦跡



伝達機能を持つ、春日山城周辺砦群の一つ

春日山城南に位置する、標高 170 m の尾根頂を中心に築かれた春日山城周辺砦群の一つです。春日山城外郭の見張り所的な存在で、宇津尾砦、トヤ峰砦との伝達機能を持つとともに、東方山裾の警備にあっていたと考えられています。頂上から東へ尾根を下ると、上杉謙信公の祈願所と伝えられる滝寺毘沙門堂があり、さらに東の飯集落には、謙信公が出陣の際に軍勢が集結し、鼓舞した場所と伝える陣取場（ズンド原）があります。



📍 中心郭の石碑（上）
謙信公祭での狼煙上げの様子（下）

滝寺歴史保存会

所在地 ● 上越市大字滝寺1124ほか



104 おおかみおくり
大神送り



無病息災、地域安寧を願い薬師山頂を目指す小正月行事

上正善寺集落の中村地区に伝わる小正月行事です。鏡開き後の最初の日曜日、薬師と呼ばれる山に登り、頂上の薬師堂の薬師如来に榊や酒、餅をお供えし、無病息災・地域安寧を願います。法螺貝を合図に行きは唄をうたいながら太鼓を叩き、「帰命頂礼薬師如来」の旗を掲げて登り、帰りは静かに下山します。かつて雪で行事を行わなかった年にオオカミが来て子どもを連れ去ったとの言い伝えがあることから、現在まで休むことなく続けられています。薬師如来は、室町時代の作と伝えられています。



📍 山頂の薬師堂に祀られる薬師如来（上）
大神送りの様子（下）

大神送り保存会

所在地 ● 上越市大字上正善寺字明光谷2098（薬師堂）



90 たきでらびしやもんどう
滝寺毘沙門堂



謙信公の祈願所 滝寺毘沙門堂

泰澄大師が和銅 5 年（712）に堂（吉祥寺）を建立したことが始まりと伝えられています。上杉謙信公が信仰し、出陣の際戦勝祈願をしたと伝えられています。慶長 5 年（1600）の上杉遺民一揆の際、堂塔伽藍が焼かれ、その後再建されました。基礎には、鎌倉時代のものとみられる五輪塔が転用されています。木造毘沙門天像は堂再建時招来されたものとされ、像高 64.5cm、憤怒の表情で、動きのある姿をしています。鎌倉時代後期から南北朝時代の制作と考えられています。



📍 滝寺毘沙門堂（上）
木造毘沙門天像（下）

滝寺町内会

所在地 ● 上越市大字滝寺1159（滝寺毘沙門堂）



27 よこばたけしゅうらくこししょうがつぎょうじ うま
横畑集落小正月行事「馬」



「ヒヒーン！」桑取谷に馬の鳴き声が響く復活した小正月行事

横畑集落に伝わる小正月行事です。1月15日夜、若者扮する「大馬」と子ども扮する「子馬」が各戸をまわり、茶の間で馬の跳ねる様子を真似て五穀豊穡を祈りました。まずは「田ならし」役が竹の棒で畳を撫で悪霊を追い払う所作をし、その後「馬」役が登場します。子どもたちはその夜「オヤカタ」の家の囲炉裏でもらった餅を焼きながら一晩中遊んだそうです。一時途絶えましたが、活動団体が地域の方々と連携して伝承を図っています。



📍 色鮮やかなまゆ玉の下で元気に跳びはねる大馬（上）
子馬（下）

**特定非営利活動法人
かみえちご山里ファン倶楽部**

所在地 ● 上越市大字横畑659（古民家「ゆったりの家」）



41 そうやざとかぐら 桑谷里神楽



上越地域の里神楽発祥の地と伝えられる、
谷浜・桑取地区の里神楽

谷浜・桑取地区は、上越地域で舞い継がれている里神楽発祥の地とされ、現在も各集落の春と秋の祭りでは神職により神前に里神楽が奉納されています。一般に十二番の舞が行われることから、「十二の舞」と呼ばれています。「古事記」「日本書紀」の神話を題材とした、出雲流神楽の系統とされています。そして様々な要素が一体となり、この地域独自のものになっています。この里神楽は、人々の暮らしに寄り添い、住民が一体となる娯楽としての意味合いもあります。



◎ 悪魔払いの舞「獅子」(上)
天下泰平を守る強さを表現する舞「太平楽」(下)

桑谷里神楽伝承会
所在地 ● 谷浜・桑取区



42 たにはま・くわどりむかしながらのぼんおどり 谷浜・桑取昔ながらの盆踊り



風情豊かな交流の場
昔ながらの盆踊り

谷浜・桑取地区に伝わる盆踊りです。かつてはどの集落でも盆踊りが盛大に行われ、集落同士の交流の場にもなっていました。若者たちは、夜な夜な提灯を手に峠道を越えて集まっては踊りの輪に加わっていたそうです。集落によって、ハリヤリヤンリヤ、ヨーホイ、イタコ等演目や踊り、リズムが違っていったそうです。現在では盆踊りが行われなくなった集落も多くなりましたが、活動団体が中心となり、地域ぐるみでの伝承が行われています。



◎ 幻想的な灯りの中で行われる、「夢に出てくる盆踊り」の様子(上)
灯籠(下)

夢に出てくる盆踊り実行委員会
所在地 ● 谷浜・桑取区



43 にしよこやまこしょうがつぎょうじ 西横山小正月行事



地域全体で守り伝える
西横山集落に伝わる小正月行事

西横山集落に伝わる、子孫繁栄、五穀豊穡等を祈る小正月行事です。市川信次がつかない縁で渋沢敬三らが訪問するなど早くから民俗学的に注目され、その後濱谷浩の写真集『雪国』で広く紹介されました。1月11日の若木迎えに始まり、14日夜から15日にかけてモノづくり、鳥追い、嫁祝い、焼草集めなどを行い、15日夜のサイの神のオーマラで最高潮に達します。18日夜に、ガヤを外し一連の行事が終わります。子どもが主役の鳥追いは、夜雪の中で繰り広げられる、幻想的な伝統行事です。



◎ 五穀豊穡を祈る「鳥追い」(上)
子孫繁栄を祈る「嫁祝い」(下)

西横山小正月行事保存会
所在地 ● 上越市大字西横山311(白山神社)



117 うばたけじんじや 乳母嶽神社



授乳、子育ての神様として
信仰を集める神社

伝承では奴奈川姫の陵に石祠を安置したのがはじまりとされます。平安時代、源義朝の臣、野宮権九郎がこの地で隠棲した際に沖合から引き揚げた不動明王を合祀、室町時代には不動明王の告げにより像を土中に埋め、乳石不動尊と称されるようになったと伝えられています。明治5年(1872)に乳母嶽神社となり、授乳・子育ての神様として、明治・大正時代には全国から参拝や代参が行われました。波間の亀と竜、鳳凰等、社殿の彫刻は、見事です。



◎ 加賀街道沿いの社殿(上)
見事な鳳凰等の彫刻(下)

茶屋ヶ原町内会
所在地 ● 上越市大字茶屋ヶ原331(乳母嶽神社)



合併前 上越市②



14

かすやまぶし たかだはなみこうた すきーみんよう 高田区 春日山節・高田花見小唄・スキー民謡 (スキー音頭・高田スキー小唄)



郷土の誇りをうたう「新民謡」

この4曲はいずれも大正末期の新民謡の流行の中で発表された民謡です。「春日山節」は、上杉謙信公の戦ぶりや心意気を称えた歌詞と、手足を力強く開く勇壮な踊りの曲です。「高田花見小唄」は、高田の桜と花見を楽しむ人々の様子がうたわれ、はらりと舞い降りる花びらを掌でそっと受ける優美な振りがあります。「高田スキー小唄」や「スキー音頭」のスキー民謡は、大正末期から昭和初期にかけて高田日報社の公募から生まれ、日本スキー発祥の地ならではの民謡です。

- 春日山節 (上)
- 高田花見小唄 (下)

高田民謡保存会

所在地 ● 高田区



5

ごぜみゅーじあむ たかだ 高田 替女ミュージアム高田



高田替女の力強い生き様と互助の精神を語り継ぎ発信

替女(ごぜ)は目が不自由な女性で、各地を巡り、唄と三味線の演奏を披露する旅芸人です。替女ミュージアム高田は、替女の住まいの雰囲気を感じられる高田の雁木町家「麻屋高野」(昭和12年築)において、その姿を今に伝える写真や映像、替女を題材とした作品を多く残した斎藤真一画伯の絵画を展示しているほか、資料の収集や替女文化を市内外に発信する活動を行っています。

- 施設前の雁木 (上)
- 施設内部 (下)

NPO法人 高田替女の文化を保存・発信する会

所在地 ● 上越市東本町一丁目2-33 (替女ミュージアム高田)



50

たかだえきほーむ 高田区 高田駅ホーム



鉄道発祥の地を物語る、開業当時のレールを再利用した駅支柱

上越市は、明治19年(1886)に新潟県で初めての鉄道である直江津~関山間が開業した、新潟県鉄道発祥の地です。高田駅のホームでは、この開業当時のレールを加工したものがホーム上屋の支柱や屋根の骨組みとして再利用されています。鉄道開業当時の駅は移転や取り壊し等でその遺構はほとんど残っていませんが、開業当時のレールが使われている高田駅ホームの支柱は、上越市が新潟県鉄道発祥の地であるということ物語っています。

- 高田駅ホーム (上)
- 新潟県鉄道発祥の地の記念プレート (下)

えちごトキめき鉄道株式会社

所在地 ● 上越市仲町四丁目1(高田駅)



61 青田川桜並木

あおたがわさくらなみき



高田の春の風物詩、青田川の桜並木

高田市街地を流れる青田川の堤防沿いの桜並木は、大正14年(1925)10月に大正天皇の銀婚式を記念して高田保勝会(のちの高田市観光協会)により植樹され、以来、毎年、高田の春の風物詩として訪れる人たちの目を楽しませてしています。

📍 大手橋から青田川上流方向を望む(上)
青田川上流から大手橋方向を望む(下)



青田川を愛する会

所在地 ● 上越市南本町一丁目～
高土町地内の青田川堤防



75 馬塚古跡

うまづかこせき



上杉謙信公の愛馬が 力尽きた場所と伝わる地

上杉謙信公の愛馬の塚と言われ、古い石碑が立っています。永禄4年(1561)の第四次川中島の合戦の際、謙信公が敵陣に切り込んだ時に乗っていた愛馬(放生月毛の駒、団白号)が傷付き、謙信公とともに春日山城へ帰る途中、ここまで辿り着いて倒れたと伝えられています。このあたりは昔、外馬塚町と言われ、この馬塚が町名の由来になったとされています。

📍 周辺は整備され、説明看板が建てられている(上)
「馬塚古跡」と刻まれた石碑(下)



南本町二丁目町内会

所在地 ● 上越市南本町二丁目8-36



84 山岡神霊位

やまおかしんれい



おこりの神様として 信仰を集める山岡太夫の墓

説教節「さんせう太夫」などで知られる山岡太夫、山椒太夫の墓として、妙国寺の旧寺、勝蓮寺の頃より過去帳にて言い伝えられています。おこりの神様(おこり病とは、マリアアノこと)として、疫病除け、難病除け、事業繁栄、商売繁盛の神として信仰を集めています。大正4年(1915)の寺町の大火事により、堂祠が焼失しましたが、平成11年に再建しました。「山岡神霊位」の額は、能楽師の永島忠彦氏の筆によるものです。

📍 山岡神霊位(上)
「山岡神霊位」の額(下)



宗教法人 妙国寺

所在地 ● 上越市寺町三丁目8-33(妙国寺)



87 百年料亭 宇喜世

ひやくねんりょうてい

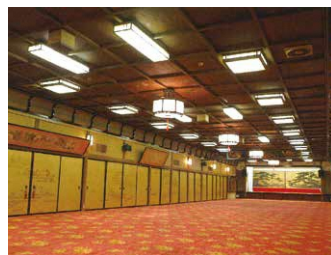
うきよ



百年以上続く、老舗の割烹料亭

江戸時代末期(1800年代中頃)から続く老舗の料亭です。宇喜世がある現在の仲町は、かつて田端町と呼ばれ、高田開府にあたり直江津の福島城下から移ってきた魚商人の町でした。主屋は創建以来何度も改修がなされていますが、昭和13年の改修により現在の形となったと推定されます。建築年代は定かではありませんが、史料をさかのぼると少なくとも明治中期頃と考えられます。

📍 宇喜世創建当初からあったといわれる北門(上)
153帖もある大広間(下)



株式会社 宇喜世

所在地 ● 上越市仲町三丁目5-4(宇喜世)



94 乗国寺の櫨の巨樹

じょうこくじのけやきのきょじゆ

高田区



のびのびと枝を張る櫨の巨樹

南本町の乗国寺境内にある櫨の巨樹で、幹周 4.7 m、枝張北西 15.6 m、北東 14.3 m、南西 13 mにおよびます。独立樹で、枝がのびのびと成長しており、樹勢は旺盛で、全体の形も美しいです。櫨の巨樹の下は、かつては子ども遊び場であり、枝の上に小屋を作って遊んだ記憶を語る人もいます。大人たちにとっても憩いの場であり、老若男女問わず地域で親しまれてきました。

📷 櫨の全景



乗国寺組合

所在地 ● 上越市南本町二丁目9-6(乗国寺)



95 高田駐屯地郷土記念館

たかだちゆうとんちきょうどきねんかん

高田区



りくぐんやほうへいだい19れんたいしやうこうしゆうかいじよ
(陸軍野砲兵第19連隊将校集会所)



高田駐屯地に現存する 唯一の明治時代の木造建築

明治40年(1907)の陸軍第13師団の誘致後、明治41年に陸軍野砲兵第19連隊の将校集会所として建築されたもので、高田駐屯地敷地内に唯一現存する明治時代の木造建築です。平成4年から陸軍及び自衛隊の歴史的資料を展示する施設として開館し、一般開放されています。長岡外史(初代師団長)、レルヒ少佐、秋山好古(第4代師団長)、蒋介石(初代中華民国総統)などの貴重な資料が展示されています。

📷 郷土記念館全景(上)
展示室の様子(下)



陸上自衛隊高田駐屯地

所在地 ● 上越市南城町三丁目7-1
(高田駐屯地郷土記念館)



113 倶利伽羅不動尊御旗

くりからふどうそんみほた

高田区



上杉謙信公が崇拝した 倶利伽羅不動尊の姿

上杉謙信公が越中へ出陣する際、名立・筒石海岸で海が大荒れしたため神仏に祈ったところ、倶利伽羅不動尊(剣に龍が巻き付いた不動明王の化身)が南方の空に現れ、たちまち海が鎮まったといいます。これを喜んだ謙信公が絵師の狩野直信に命じてその姿を描かせたものと伝えられています。現存する御旗は、後世に狩野派の絵師、狩野東玉により再度制作されたもので、南本町3丁目の飴屋高橋孫左衛門宅に保管されています。

📷 実際の登拝に使用される「御前立」(上)
春日神社の境内に立つ説明看板(下)



御旗保存会

所在地 ● 上越市本町一丁目6-22(春日神社)



114 謙信公代参登拝行事 南方山

けんしんこうだいさんとうはいぎやうじ なんぼうさん

高田区



上杉謙信公の代参登拝から始まった 伝統行事

春日山から南方にある妙高山上の阿弥陀三尊に祈願する行事で、元亀元年(1570)に上杉謙信公が、領内の人々の家内安全・商売繁盛・五穀豊穰・子孫繁栄を願い、林泉寺六世天室和尚に「倶利伽羅不動尊御旗」を捧げ持ち、自身の代わりに代参登拝するよう依頼したことが始まりです。行事は城下が高田へ移って以降、現在に至るまで途切れることなく継承されており、毎年7月22日の朝、白装束に身を包み御旗を掲げた代参一行が春日神社を出発し、翌朝、妙高山頂に登拝します。

📷 妙高山頂の様子(上)
春日神社における出立式の様子(下)



宗教法人 春日神社

所在地 ● 上越市本町一丁目6-22(春日神社)



56 お諏訪さんの大ケヤキ

新道区



市



親鸞聖人が植えたと言われている大ケヤキ

稲田諏訪神社の境内にある推定樹齢約 800 年の大ケヤキです。親鸞聖人が布教の折、境内に植えられたと伝えられています。地元だけでなく、近郷・近在の老若男女問わず「お諏訪さんの大ケヤキ」として、長年親しまれてきました。昭和 58 年からは毎年「大ケヤキ祭り」が開催され、活動団体が地域の親睦とケヤキの保護に努めてきました。毎年、稲田小学校の生徒と一緒に肥料をあげたり、手入れをしながら大ケヤキを見守り続けています。



📷 稲田諏訪神社の鳥居から大ケヤキを望む（上）
大ケヤキの全景（下）

お諏訪さんの大ケヤキ保存会

所在地 ● 上越市稲田一丁目6(諏訪神社)



72 とよば神明社のご神木大ケヤキ

新道区



樹齢 350 年 地域に親しまれている 2 本の大ケヤキ

神明社の境内には樹齢 350 年の 2 本の大ケヤキがそびえています。大ケヤキは、幹周 3.9 m、樹高 28 m 及び幹周 3.5 m、樹高 28 m とされています。神明社がある宮ノ台公園は、地域の交流の場として日頃から地域住民が訪れ、子どもたちの遊び場ともなっており、この大ケヤキはたくさんの地域の人に親しまれています。毎年春（4 月 5 日）と秋（11 月 3 日）の祭りでは、樹勢が衰えることのないよう、地域の方々で祈願を行っています。



📷 2 本の大ケヤキ（上）
とよば神明社（下）

とよば町内会(大ケヤキ保存会)

所在地 ● 上越市とよば117(神明社)



115 子安神社

新道区



村の名前の由来にもなった、子宝の神様

創建の年代は不明ですが、往古より当地に鎮座し、言い伝えによると、この地に難産がないことから、遠近の妊婦が安産祈念に訪れるようになり、神社の名前が子安神社（子安大明神）となるとともに、村の名前も子安となったとされています。子宝・安産・お乳の神として崇められ、かつては安産祈願に腹帯、晒一反をお供えしていました。現在の拝殿は平成 15 年に改築されたもので、天井には子どもが誕生した家庭から御礼に奉納された提灯が掲げられています。



📷 子安神社（上）
秋の例祭の様子（下）

宗教法人「子安神社」氏子会

所在地 ● 上越市大字子安959(子安神社)



6 甲山八幡神社

春日区



謙信公が甲を奉納したと伝えられる神社

春日山城南の小高い山の上に鎮座する、岩木集落の氏神様です。名の由来は、上杉謙信公が川中島合戦の折に甲を奉納したからとも、裏山に八幡太郎義家の甲が埋まっている伝説があるからとも言われています。江戸時代に描かれた春日山城の絵図には、「甲宮」「兜宮」と記載されています。また、地域に伝わる岩木集落を描いた江戸時代の絵図には、「宮」と書かれた山を中心に集落が描かれ、古くから集落の中心であったことがわかります。



📷 登り口の石碑（上）
山の上に鎮座する甲山八幡神社（下）

岩木一丁目町内会

所在地 ● 上越市大字岩木2321(甲山八幡神社)



96

せんごくのめいしょう
戦国の名将
うえすぎけんしんこうのきよじょう かすがやま
上杉謙信公の居城「春日山」



**全国屈指の雄大さを誇る、
上杉謙信公の居城**

上杉謙信公の居城春日山城は、戦国時代を代表する山城です。標高約180mの山に築かれ、2km四方に郭や空堀等が広がります。越後府中の要害として築かれたのが始まりとされ、現在見られるような広大な城郭に整備されたのは、謙信公と景勝公、さらに堀氏によるものと考えられています。謙信公の居城、春日山城は、廃城となって400年以上が経過した今もなお、多くの人に愛され続け、大切にされています。

📍 春日橋から仰ぎ見る春日山(上)
戦国の土木工事の粋と黄金色に輝く二の丸の一本イチョウ(下)

春日山城跡保存整備促進協議会
所在地 ● 上越市大字中屋敷ほか



1

いまいずみじょうせきのおおけやき
今泉城跡の大ケヤキ



**今泉城跡の土塁上にそびえる
新幹線駅直近のパワースポット**

上越妙高駅近くの大和神社境内一帯は、南北朝時代に南朝方の村山氏が居城「今泉城」を構えた地とされます。境内に残る土塁上にそびえる大ケヤキは、幹周り6.6m、樹高27mで、樹木医による科学的調査により樹齢350年以上ということがわかっています。100年以上前に落雷の被害にあったとされ、幹の芯部から東側全体が焼けて空洞化していますが、たくましく成長を続けています。環境省の「巨樹・巨木林データベース」に登録されています。

📍 土塁上にそびえる、新緑の今泉城跡の大ケヤキ

上越妙高駅と共に歩む会
所在地 ● 上越市大和二丁目10-24(大和神社)



24

もとちょうじゃはらはいじあと
本長者原廃寺跡
えちごこくぶんじすいていち
(越後国分寺推定地)



越後の古代史の謎に迫る

本長者原廃寺跡は、古代の越後国分寺の可能性が高いとされる遺跡です。本長者原集落の畑には、かつて一辺約2.7m、中央に直径90cm、高さ15cmの突起がある石があり、古くから「長者原の蔵の礎石」と呼ばれてきました。このような形をした石は、古代寺院の塔の中心となる柱(心柱)の根元に据えた心礎であると考えられています。遺跡出土の布目瓦も、この地に古代の越後国分寺があった可能性を示す重要な手がかりの一つと言えます。

📍 更正図の貼り合わせ作業の様子(上)
突起のある石(下)

三郷地区の歴史・史跡を研究する会
所在地 ● 上越市大字本長者原ほか



12

みずたにけとなんぼいざん かんぎどう
水谷家と南方位山・歓喜堂



**地域が誇りとする伝統行事
水谷家と南方位山・歓喜堂**

上杉謙信公が始めたと伝える妙高山の代参登山「南方位山」は、現在も春日神社(本町1丁目)と氏子たちにより行われています。水谷家の先祖で、江戸時代に荒町組と新井組の大肝煎を務めた水谷与右衛門は、南方位山での揉め事を仲裁しました。それ以来、一行は往復とも水谷家に立ち寄り、敷地内の歓喜堂に参拝を続けているということです。歓喜堂の祭神は、大聖歓喜自在天です。夫婦和合、子孫繁栄を祈念する堂として信仰されています。

📍 歓喜堂(上)
南方位山一行の御礼参りの様子(下)

大和三丁目町内会
所在地 ● 上越市大和三丁目18-17(個人敷地内)



13 あらまぢかんのんどう
荒町観音堂



地域で愛される 荒町観音堂

観音堂の由来には、江戸時代の大洪水で流れて来た観音を安置したもの、御館の乱の際にもたらされたものなど諸説あります。天和2年(1682)検地帳に「観音堂」とあることから、この頃には堂があったと考えられています。堂内には大小2体の石仏が安置され、大きな本尊が小さな地藏菩薩を抱いているように見えます。毎年4月18日に観音堂祭が行われています。子どもの夜泣きを治す御利益もあるとされ、子育て中の人の信仰を集めています。

◎ 観音堂祭の時の観音堂(上)
堂内の石仏(下)

大和三丁目町内会

所在地 ● 上越市大和三丁目19



93 いしざわにしゅうごにちこう
石沢二十五日講



190年以上続く、地域の伝統行事

石沢では190年以上前に集落を二分する争いがあり、上宮寺(南本町3丁目)住職により円満解決されたことから、報恩と集落の融和を願い、天保11年(1840)2月25日開講したとされます。開講に合わせ西本願寺から方便法身尊像を、安政4年(1857)に東本願寺から御文章を受けています。毎月25日各戸持ち回りで行っていましたが、昭和14年以降公会堂で行われるようになり、現在は老人会の行事として3・6・8・10月に行っています。法座は上宮寺が担当、10月のしまい講は妙行寺(大字寺町)が補助にあたります。

◎ 石沢公会堂(上)
二十五日講の様子(下)

石沢町内会

所在地 ● 上越市大字石沢737(石沢公会堂)



64 しちかしよしんでんじぞうそん
七ヶ所新田地蔵尊



**子どもを見守り、
子どもをあやす七ヶ所新田の地蔵尊**

災難除け、子授かり、安産、子育てに御利益があると古くから評判の地蔵尊です。地蔵堂はかつて現地南の願通寺境内に隣接していましたが、明治41年(1908)に七ヶ所新田の神明社が大和神社へ合祀の際、神社跡地に移されました。堂内の板石地蔵菩薩1軀は南北朝時代、地蔵菩薩1軀は戦国時代の作と伝えられています。堂内の石仏には満願の御札に名入れよだれ掛け等が奉納されています。毎年4月24日、地蔵まつりが行われています。

◎ 七ヶ所新田地蔵尊(上)
地蔵まつりの様子(下)

大和一丁目町内会七ヶ所新田区

所在地 ● 上越市大和一丁目10-12



108 しろやまいせきとしろやまじんじやれいさい
城山遺跡と城山神社例祭



**地域の歴史文化を今に伝える、
城山遺跡と城山神社例祭**

標高283mの城山は、春日山城の支城、黒田城、今泉山城等と呼ばれる山城が築かれました。江戸時代、大字今泉の飛地となり、旧集落(今泉、土合、七ヶ所新田、脇野田、荒町)の共有地となりました。昭和の中頃までは燃料の薪や牧草の採取地として利用されていました。昭和42年には高田発電所、城山浄水場用地として一部が譲渡され、公共事業に貢献しました。山頂には、文化13年(1816)8月建立の石祠があり、城山神社として毎年5月に祭典が行われています。

◎ 城山(上)
山頂の城山神社(下)

城山管理者

所在地 ● 上越市大字今泉字城山



109 農耕牛馬装削蹄場所跡と馬頭観世音碑



昔の暮らしを語り継ぐ、
地域の人々の交流の場

かつて農耕の主役は牛馬でした。弘化3年(1846)3月建立の馬頭観世音碑が立つ稲荷中江用水沿いの土地は、かつて牛馬を繋ぐのにちょうどよい松の大木もあり、昭和40年頃まで農耕牛馬の洗い場、年2回の装削蹄場所(爪を切る場所)として利用されていました。地域の方々はここを「馬頭さん」と呼び、雪解け後の春耕前に世間話をしながら爪切りの順番を待つなど、交流の場でもありました。毎年4月18日に農家祭が行われています。



📍 馬頭観世音碑(上)
説明看板(下)

大和二丁目町内会
大和二丁目農家組合
所在地 ● 上越市大和二丁目



現地調査の様子



31 芳澤記念公園、芳澤記念館



利益と道義の狭間で、国益のために奮闘した
芳澤謙吉翁、外交生活60年を顕彰する公園、記念館

芳澤謙吉は、明治7年(1874)に新潟県中頸城区下堀之内村(現上越市大字諏訪)で生まれ、我が国ぎっての亜細亜通外交官として知られています。日ソ基本条約の締結による日ソ国交回復や、太平洋戦争開戦を控えての蘭印経済交渉や仏印交渉、また、犬養内閣の外務大臣を務めるなど、幾多の難局において、重要な役割を果たし、外交官としての生活は60年に及びました。この公園、記念館は芳澤謙吉生誕の地の宅地を一部改造し、昭和33年に設置されました。



📍 記念館「米南荘」(上)
謙吉翁の晩年の姿をモデルとした銅像と翁の業績を記している「けんしょうの碑」(下)

芳澤謙吉翁顕彰会
所在地 ● 上越市大字諏訪68
(芳澤記念公園、芳澤記念館)



106 米岡和みの八本桜

諏訪区



八本の幹を持つ、見事な桜の木

飯田川は、かつては大きな氾濫を繰り返す暴れ川と言われていました。度重なる氾濫を防ぐため、大正から昭和前半頃にかけて、流路をほぼ直線にして両岸に堤防をつくる大規模な工事が施工され、完成の記念にソメイヨシノが植樹され、桜並木が作られました。現在ではそのほとんどが枯れてしまいましたが、残っていた一つの古株が成長し、八本の幹（径 1.3～1.9 m）が伸びているように見えたことから、いつしか、「米岡和みの八本桜」と呼ばれるようになりました。

📍 飯田川の堤防に咲く八本桜（上）
古株から八本の幹が伸びている（下）



米岡町内会

所在地 ● 上越市大字米岡地内



107 米岡のはさ木道

諏訪区



かつての新潟の一般的な田園風景を残す

米岡集落と諏訪小学校を結ぶ市道約 500 m の間に、はさ木として使われたヤチダモの木が立ち並んでいます。はさ木は、刈り取った稲を干して乾燥させるときに使われたもので、新潟県の一般的な田園風景でした。この米岡のはさ木道は、平成 15 年に周辺のほ場整備事業に併せて不要となっていたはさ木を通学路の縁に植え替えたもので、現在では近くの諏訪小学校の学校田で刈り取られた稲がはさ掛けされています。

📍 かつて新潟県内でよく見られた田園風景を残す（上）
小学生の通学路上に植えられているはさ木の並木（下）



米岡町内会

所在地 ● 上越市大字米岡地内



44 前島密翁生誕の地・献碑祭

津有区



日本近代郵便制度の父の偉業をたたえる

前島密は天保 6 年（1853）、下池部上野家の次男として生まれ、郵便制度をはじめ明治維新期の日本にとって大きな功績をあげました。大正 10 年、生誕の地に「男爵前島密生誕之處」と刻まれた石碑が建立されました。題字は渋沢栄一、裏の撰文は市島謙吉が書き、会津八一と坪内逍遙が校閲したものです。以来、毎年 7 月 1 日に地域住民や関係者によって密を偲ぶ献碑祭が行われており、令和 4 年には 100 回を迎えました。

📍 新海竹太郎作の前島密銅像（上）
献碑祭の様子（下）



下池部町内会

所在地 ● 上越市大字下池部1317-1
(前島密記念館)



99 千手観音堂

津有区



今も昔も多くの人に愛される千手観音堂

越後国の横道 12 番札所で、木曾義仲が訪れ、深く参拝したとの伝承があります。昭和 30 年代までは毎月 2 月に団子まき、8 月に御施飢鬼の祭りが行われ、参拝者で賑わったようです。現在堂はありませんが、千手観世音の石碑や、7 軀の地藏菩薩等があります。また、堂の前、堂南等の地名も残っています。本尊の千手観音像は、現在賞泉寺（安塚区安塚）に安置されています。地元の角川村同行中が奉納した釈迦涅槃図は、地域で大切に守り伝えられています。

📍 境内地内の千手観音堂の石碑（上）
釈迦涅槃図（下）



四辻町町内会

所在地 ● 上越市大字四辻町79



100 しんやしきぶんきょうじょうあと
新屋敷分教場跡
とのめしやうがっこうだいにぶんこう
(戸野目小学校第二分校)

津有区



地域の学び舎、思い出の場所

四辻町多目的研修センターの場所に設置されていた戸野目小学校の分校跡地です。四辻五ヶ字（角川、新屋敷、四辻、重川、角川古新田）の子どもたちは、明治5年（1872）の明治政府の新学制発布以来、飯田川を隔てた川浦尋常小学校へ通っていました。明治22年（1888）の町村制施行により四辻五ヶ字は津有村、川浦は里五十公野村となりましたが、新屋敷分教場が設置され、3年生までは分教場、4年生からは戸野目小学校に通学することになりました。昭和43年の廃校に伴い、保育園、その後町内の集会場に転用されました。

📍 分教場跡地に建つ多目的研修センター（上）
説明看板（下）

四辻町町内会

所在地 ● 上越市大字四辻町151-1
(四辻町多目的研修センター)



101 じやうじゆいんあと
成就院跡

津有区



上杉謙信公から称号を賜った寺院跡地

成就院は、和銅5年（712）、泰澄大師がこの地で道場を建立したのが始まりと伝えられています。その数年後に紀伊国の僧が一切経を修蔵して寺号を萬藏坊とし、大永7年（1527）には境内地に社殿が建立されました。その後、永禄元年（1558）には日照りが続き、上杉謙信公からの命で、任職が8月1日から7日間雨祈禱を行ったところ、満願の7日に降雨があったことから、謙信公より萬藏坊に「成就院」を、神明社に「雨宝尊神明宮」の称号を賜ったとされ、現在、それを示す石碑が建立されています。本尊の不動明王像が大切に伝えられています。

📍 成就院跡（上）
地域で大切に伝えられる本尊の不動明王像（下）

四辻町町内会

所在地 ● 上越市大字四辻町739-1



15 いなだにだんとうのおおすぎ
稲谷「だんとうの大杉」

高土区



高土の宝

高くそびえる稲谷の「だんとうの大杉」

稲谷集落の諏訪神社の御神木です。高くそびえ、集落のランドマークとなっています。樹木医の調査によると樹齢推定500年以上とされ、樹高20m、幹周り7.4mの巨樹です。「だんとう」という名前は、他の場所で処刑された人の頭をさらした場所（壇頭場）に由来するのではないかとも言われていますが、その由来は定かではありません。令和2年度からの5か年計画で、樹木医指導のもと、住民参加の樹勢回復事業が行われています。

📍 頂部のちょんまげが目印の、稲谷集落のランドマーク、「だんとうの大杉」

稲谷【だんとうの大杉】保存会

所在地 ● 上越市大字稲谷509(諏訪神社)



70 いわのはらこうた
岩の原小唄

高土区



岩の原葡萄園の葡萄畑の情景が目に浮かぶ、やさしくゆったりした唄と踊り

昭和24年頃から岩の原葡萄園（北方）や高土地区で唄って踊られたものと伝えられており、作詞小山直嗣、作曲中山晋平とされています。作られた経緯は、葡萄園での増産意識の高揚を図るため、ワインのPRなど諸説あります。「越後岩の原 葡萄の名所ヨイトサー」「おらが葡萄酒ほめるじゃないが」等、当時の葡萄園の様子が目に浮かぶ歌詞が織り込まれた曲に合わせて、赤い襟にはんちゃ姿で踊ります。

📍 高土まつりでの披露の様子（上）
子どもたちへの伝承風景（下）

高土地区婦人会

所在地 ● 高土区



71 日月神社御宝物

にちがつじんじゃごほうもつ

高士区



かつては日月堂と呼ばれた、日月神社に伝わる様々な御宝物

日月神社は、かつて日月堂と呼ばれていました。昭和40年に飯田集落内の3社が合祀され、現在に至ります。神社本殿は一間社流造りの形式で、屋根は柿葺き、優美な曲線美を表しています。社殿内には様々な宝物があり、日光・月光菩薩とされる2軀は、元禄11年(1698)に日月神社御神体として寄進されたことが厨子に刻まれています。ほかに勢至菩薩、観音菩薩、子安観音とされる像、室町時代の制作とみられる狛犬などがあります。



📷 竹灯籠の灯りで幻想的な日月神社(上)
様々な御宝物(下)

飯田町内会

所在地 ●上越市大字飯田504-4(日月神社)



高士区



74 飯田川のさくら並木

いいたがわのさくらなみき



飯田川堤防の春を彩るさくら並木

飯田川堤防のソメイヨシノのさくら並木です。飯田川は氾濫が多く「暴れ川」と呼ばれ、大正2年と3年の大雨では、堤防の決壊で濁流が押し寄せ、飯田集落の水田約半分が2年に亘り収穫が出来ない大災害となりました。そこで、大正4年に県営事業で延長約510mに及び堤防が築られました。さくら並木は、その後、昭和天皇の御成婚記念に飯田集落が植えたもので、春の桜、夏の新緑、秋の紅葉と季節ごとに堤防を美しく彩ります。



📷 空から撮影したさくら並木(上)
満開の桜と憩いのベンチ(下)

飯田町内会

所在地 ●上越市大字飯田地内(飯田橋付近)



73 高士小学校校歌

たかししょうがっこうこうか

高士区



別々の人が詠んだ和歌を雅楽調に歌い続ける珍しい校歌

高士小学校は明治7年(1874)創立で、校歌は明治43年(1910)の講堂落成式で最初に歌われた記録が残されています。歌詞は、明治41年(1908)に岩の原葡萄園の創始者である川上善兵衛の求めで来校した公家出身の東久世通禮が詠んだ和歌を1番に、翌年勅語奉読会のため来校した浄土真宗本願寺派の高僧、島地黙雷が詠んだ和歌を2番にし、雅楽調に歌われます。二人とも敷地内での松の植樹の際和歌を詠んだとされ、現在もゆかりの松が大切にされています。



📷 校内に掲げられる、1番の和歌(上)
2番の和歌(下)

上越市立高士小学校後援会

所在地 ●上越市大字高津49(高士小学校)



高士区



76 高士八社五社

たかしやしゃごしゃ

市



十三の式内社を唄い伝えた踊り

上越地方を中心に頸城全域と魚沼地方で広く唄われ、踊り続けられている民謡です。ヨイヤアナー踊り、または十三夜とも呼ばれ、太鼓と囃子に合わせ、ゆっくりと踊られます。延長5年(927)、醍醐天皇の詔により編纂された「延喜式」の「神名帳」に記載され、式内社に格付けされた神社を唄ったものと伝えられています。名前の由来は、唄われた式内社が関川を挟んで西に八社、東に五社の計十三社あったことにちなんだものと考えられています。



📷 十三の式内社を唄う、高士八社五社の披露の様子

高士八社五社保存会

所在地 ●高士区



77 川上善兵衛生誕の地「高土」



善兵衛さんが愛し、 村づくりに一生を捧げた地「高土」

明治元年（1868）、北方の地主の家に生まれた川上善兵衛は、農民の困窮を救うのは地主の責務として、ワイン造りのため葡萄栽培を行う岩の原葡萄園をひらき、ワインの原料となる葡萄の品種改良に取り組み、「日本ワイン葡萄の父」となりました。また、高土村長を4度務め、教育を村是とし、パリを模した村中心地への放射状の道路整備などのまちづくりも行いました。高土地区では、善兵衛を愛着を持って「善兵衛さん」と呼んでいます。



📷 川上善兵衛翁（上）
高土小学校の善兵衛学習で栽培したマスカット・ベリーA（下）

高土地区振興協議会
所在地 ● 高土区



20 D51 テンダー型蒸気機関車 製造番号 75 及双頭レール



現存する貴重な機関車と 明治初期のレール

五智交通公園に静態保存されているD51-75は、昭和13年に建造され、関東圏で活躍した後、昭和33年から昭和47年まで直江津～酒田間の日本海縦貫線で活躍した機関車で、廃車までに地球を65周するのと同等の距離を走行しました。機関車と一緒に展示されている双頭レールは、明治3年（1830）に英国ダーリントン製鉄所で作られたもので、昭和48年に取り壊された直江津機関区扇形車庫の柱などに転用されていました。



📷 五智交通公園に静態保存されているD51-75（上）
清掃活動の様子（下）

東日本鉄道OB会直江津支部
所在地 ● 上越市五智六丁目1569（五智交通公園）



7 直江津舟方節



北前船の船乗りたちによって伝えられた、 軽快で威勢の良い踊り

「直江津舟方節」の元唄は、島根県の海岸部一帯と瀬戸内海の島々に今も唄われている「さんご節」から派生した「出雲節」や「安来節」と言われています。「出雲節」や「安来節」は、北前船などの船乗りたちによって酒の席での「騒ぎ唄」として、形を変えながら日本海沿岸の港に伝えられました。北前船の寄港地であった上越市にも、現在の直江津が越後今町と呼ばれた1600年代に同系の唄が伝わりました。同系の唄として、「能代舟方節」「酒田舟方節」などがあります。



📷 直江津舟方節を披露する様子

直江津民謡保存波路会
所在地 ● 直江津区



23 狛犬と居多神社文書



越後の中世史を研究する上で 欠かせない貴重な資料

居多神社に伝わる雌雄一対の木造の狛犬は、昔から御神体を守るため神前に祀られてきました。両像ともヒノキ材を用いた一木造で、鎌倉時代後期に制作されたものと推定されています。制作当初は彩色が施されていたと思われますが、剥落によって木地のままとっており、表情などはわからなくなっています。また、古代から越後の中心的な役割を担った居多神社には多くの古文書が所蔵されており、越後の中世史を研究する上で欠くことのできない資料となっています。



📷 雌雄一対の狛犬（上）
居多神社に所蔵されている古文書（下）

宗教法人 居多神社
所在地 ● 上越市五智六丁目1-11（居多神社）



59

北前船がはこんだもの

直江津区



上越地域の人々の生活を支えた北前船がもたらした記憶
江戸時代、かつての直江津「今町湊」には北前船が寄港し、様々な物資が行き交うだけでなく、町には廻船問屋、船乗りたちが泊まる船宿などが軒を連ねて大変な賑わいみせ、この地域の発展を支えました。現在の直江津には北前船がもたらした笏谷石や御影石が町なかに見られるほか、航海の安全や商売繁盛を祈願して奉納された船絵馬や、尾道（広島県）の石工作の鳥居、阿波（徳島県）の藍商人が奉納した灯笼や手水石などがあります。

○ 尾道石工作の八坂神社の鳥居（上）、泉蔵院の笏谷石の六地藏（下）

まちおこし直江津

所在地 ● 上越市中央五丁目1-1（真行寺）
上越市西本町四丁目2-25（八坂神社）
上越市西本町四丁目6-5（泉蔵院）
上越市中央五丁目2-46（観音寺）
上越市西本町三丁目5-15（府中八幡宮）
上越市五智三丁目20-21（五智国分寺）
上越市五智六丁目1-11（唐多神社）
上越市住吉町5-15（住吉神社）
上越市中央三丁目17-32（琴平神社）



65

福島城址

直江津区



越後初、近世の平城

福島城は、慶長3年（1598）の上杉景勝公の会津移封後、春日山城主となった堀氏により慶長7年（1607）に築城された越後ではじめての平城です。越後一国の城として堀秀治・忠俊父子により築城された規模の雄大な城郭でしたが、堀氏に代わり入城した徳川家康の六男、松平忠輝公の高田築城に伴い、わずか7年で廃城となりました。現在、本丸跡の旧古城小学校敷地内には、「福島城址」の石碑や、福島城を愛する会運営の福島城資料館があります。

○ 福島城址の石碑と石垣（上）
福島城の沿革を説明する看板（下）

福島城を愛する会

所在地 ● 上越市港町二丁目16-1（福島城資料館）



97

蟹池地藏尊と蟹池伝説

有田区



道行く人びとを見守ってきた地藏尊と池の名前の由来となった伝説

旅の画家が、安江に住んでいたある旦那の金屏風に絵を描いたところ、子どものいたずら書きのようなものだったので旦那が怒りました。画家が「いけないというなら消しましょう」と言って「シッシッ」とやると、墨跡がカニになって絵から出て、水だらけになりました。このカニを捨てた池は蟹池と呼ばれるようになりました（蟹池伝説）。この蟹池を江戸時代に開拓した際、池の底から出土したのが蟹池地藏尊です。

○ かに池公園内の蟹池地藏堂（上）
お堂の中に立ち並ぶ地藏（下）

下門前町内会

所在地 ● 上越市下門前1663（かに池公園内）



52

夷浜米大舟

八千浦区



市



北前船が伝えた民謡「米大舟」

北前船の船乗りたちが伝えた米大舟の元歌は、山形県の酒田節といわれています。当時北前船は弁財船（べざいせん）、船乗りたちは弁財衆（べざいしゅう）と呼ばれていました。米大舟の名前の由来は、この弁財衆が詠ったものと言われています。米大舟は市内では夷浜のほかに、黒井や大湊区の漏町、土底浜にもそれぞれ伝わっています。夷浜の米大舟はゆったりとしたテンポが特徴で、波や背負子（しよいこ）の動きを繰り返しながら踊り続けます。

○ 夷浜米大舟を披露する様子（上）
祭りの流しの様子（下）

夷浜米大舟保存会舟踊会

所在地 ● 上越市大字夷浜



9 あおの つるぎの まい 青野「剣の舞」

保倉区



復活した地域の伝統芸能！

和太鼓と篠笛、唄に合わせて、右手に剣、左手に鈴を持って、4人一組で踊る勇壮な舞です。昭和10年頃、地域の若者が旧三和村の水吉に芸能を習いに行き、覚えてきたものといわれています。戦後披露する機会が減り、後継者不足もあつたことから一時期途絶えていましたが、平成29年に保存会が結成され、復活しました。舞は、「鞘の舞」「抜身(ぬきみ)の舞」「三人の舞」、剣を自由自在に振り回すという激しい動作を伴う勇壮な「一人舞」があります。

- 📷 小学校で披露した際の様子(上)
- 📷 剣の舞の練習の様子(下)

青野芸能保存会

所在地 ● 上越市大字青野



現地調査の様子

